

「ばあちゃんへの復讐」

コロナが治ったと思ったら、なんと同居のばあちゃん(母)が施設でコロナをもらってきて、オロオロした高野です。

「熱があるので迎えにきてください」とデイサービスから電話があつて、家内が迎えにいくと、ぐったり。他にも施設からコロナ患者が出たようで、覚悟して検査すると、やっぱり陽性…。

そうやってデイサービスに預けることも出来ず、我が家での24時間の介護生活が始まったのでした。ラッキーだったのは、子ども達が夏休みだったこと、長男以外は2週間前にコロナに罹っており、家庭内で広がるリスクがなかったことでしょうか。

89歳のばあちゃんがコロナになったと言うと周りは大そう心配してくれますが、冗談抜きに頭以外に悪いところはなく、熱が2日続いただけで他は何の症状もありません。

ただ、ほんとうの問題はここからでした。高熱で2日間、眠り続けたばあちゃんは、見事に生活が昼夜逆転。3日目から真夜中1時ごろに目を覚まし、動き回ります。

認知症のおかげで一度気になると何度も同じことの繰り返し。

「明日は墓参り行くつちやろ」と数分ごとにメガネやバッグを探し回ります。それが明け方6時近くまで繰り返されるのです。横の部屋で寝ている女房・子どもに気づかれまいと極力、私も声を小さく注意するのですが、みんなお見通しです。

「お父さん、切れとったね。ばあちゃんに(笑)」と言われる始末。そりゃ～二日も三日も睡眠削られたら切れますよ、誰だって。

朝7時、仕事の準備をしていると、いびきをかいている母が、腹立たしく思えてきます。

そこで思いついたのが、ばあちゃんへの復讐です。

子どもたちに「いいか、ばあちゃんが起きてきたら、夜まで寝かすな。」と指示。

もう絵本は必要のない子ども達ですが、絵本を読んでくれとか、折り紙を作ってくれとお願いするよう指示したのです。子どもたちは忠実に私のミッションを遂行。「もう寝かせて」というばあちゃんを日中、寝かせないことに成功したのです。

すると生活習慣は見事に元に戻ったのです。そしてそれまでは最低一晩に1回トイレに行っていたのが、疲れ果てたせいかそれすらも改善されたのです。

めでたしめでたし、これでやっとデイサービスに復帰できると思った6日目。

施設に預けようと抗原検査したら陽性反応。施設からも陽性反応があるのでは…と断られ、結局10日間、ばあちゃんを四六時中介護するハメになったのでした。

「やられたら、やりかえす」ばあちゃんとの暑い夏はまだまだ続きそうです。